

第2次静岡市環境基本計画  
環境指標進捗状況 個票  
(平成30年度末時点)



分野	生活環境	基本目標	住み良さを実感できる生活環境をつくります
----	------	------	----------------------

項目 01

指標名	事業者の公害法令順守率				
指標値	92%以上	時点	最終年度	方向性	維持・向上
目標	市民が豊かな環境からの恵みを享受する基盤となる、「安心・安全な生活環境」の確保と充実を図ること				

指標の内容	定義	「立入調査によって、大気(ばい煙、ダイオキシン、VOC)、水質に関する排出基準等の順守が確認された事業所数」/「立入調査を行った事業所数」により算出
	概要	<p>第3次静岡市総合計画に掲げる「安心・安全な生活環境の確保と充実」を実現するため、事業者による公害法令の順守を徹底し、市民の健康に悪影響を及ぼす要因を排除する。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業者等への定期的な立入調査、指導による適正管理の推進 届出のある全事業者に対する立入調査を実施(3~5年で全事業者1周を目途) 違反のあった事業者に対しては、継続して調査、指導を実施</li> <li>化学物質の排出に係る、届出の受理及び審査、排出量や移動量の公表</li> <li>事業所の環境保全対策への取組み支援</li> </ul> <p>※ 長期的には、「法令順守率100%」の達成を目指しているが、本計画の期間中における現実的な成果指標として、順守率の改善を前提とした各年度の目標値を設定している。</p>

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)	
	実績	/	90.0%	88.3%	91.3%	95.3%					
	進捗		○	○	○	○					
	参考	公害苦情の件数									
			H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
悪臭	事業活動	28件	27件	34件	25件	30件					
	上記以外	1件	5件	9件	11件	11件					
騒音	事業活動	105件	75件	71件	91件	63件					
	上記以外	10件	17件	16件	7件	17件					
振動	事業活動	1件	4件	3件	7件	1件					
	上記以外	2件	1件	1件	0件	0件					

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	生活環境	基本目標	住み良さを実感できる生活環境をつくります
----	------	------	----------------------

項目 02

指標名	文化財保護に携わる市民ボランティア数			
指標値	150人以上	時点	目標年度	方向性 向上
目標	歴史・文化とふれあう機会の充実により、歴史文化遺産や自然環境の保全活動に関わることのできる「人づくり」を推進すること			

指標の内容	定義	文化財保護活動や情報発信を担う市民ボランティアである、「文化財サポーター」登録者のうち、市の文化財関連事業に実際に参加した年間述べ人数を集計
	概要	<p>「文化財サポーター」の養成事業や、サポーターと連携した文化財関連事業の実施によって、市民主体の文化財保護を推進する。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「文化財サポーター養成事業(H25～)」による市民ボランティアの養成</li> <li>・歴史文化遺産の保全、活用事業をサポーターと連携して実施</li> </ul> <p>平成30年度実施事業（全8事業）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 古文書調査(静岡大学との連携事業、学生と共に古文書写真撮影)</li> <li>② 埋蔵文化財センター企画展及び関連講座(企画展展示作業補助、展示解説、講座運営補助)</li> <li>③ 発掘現場説明会(説明会運営補助)</li> <li>④ 静岡浅間神社建造物保存修理現場見学会(見学受付、会場警備)</li> <li>⑤ サポーター総会への参加</li> <li>⑥ 大神楽祭(運営補助、アンケート配布・回収)</li> <li>⑦ 賤機山古墳案内(小中学校の見学に対応。事前にサポーター講習を受講)</li> <li>⑧ 歴史文化施設プレ事業(プレ事業運営補助)</li> </ol>

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
	実績	35人	-	-	-	100人	-	-	-	150人
	進捗		○	○	○	○				

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	生活環境	基本目標	住み良さを実感できる 生活環境をつくります
----	------	------	-----------------------

項目 03

指標名	市民一人当たりの都市公園面積				
指標値	8.0㎡/人以上	時点	目標年度	方向性	向上
目標	緑あふれる美しいまちを創出し、都市環境及び市民の生活環境の向上を図ること				

指標の内容	定義	「都市計画区域内における公園面積」／「都市計画区域内における人口」により算出
	概要	<p>市の財政状況を踏まえた計画的な公園整備と、無償借地公園制度等の新たな手法の導入によって、都市計画区域内における公園面積を拡充する。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みどりの基本計画」に基づく計画的な公園の整備 「みどりの基本計画」における将来の都市公園配置計画実現に向けて公園整備を進めていく。 長期目標として、概ね15年後(令和15年度)において、市民一人当たり22㎡/人の整備目標を掲げている。</li> <li>・無償借地公園制度の推進(平成26年度～) 民間の土地所有者から無償で土地を借り受け、市と地域住民が協働して公園としての整備、供用後の管理を行う事業。 土地所有者は、税制上の優遇が受けられ、土地管理の負担が軽減される。 ※平成30年度末時点での整備実績 1件 三保陽だまり公園(H28.2供用開始)</li> </ul>

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
			6.0㎡/人	-	-	-	6.7㎡/人	-	-	-
	実績	/	6.2㎡/人	6.27㎡/人	6.33㎡/人	6.51㎡/人				
	進捗		○	○	○	○				

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	生活環境	基本目標	住み良さを実感できる生活環境をつくります
----	------	------	----------------------

項目 04

指標名	生活排水処理率			
指標値	90%以上	時点	目標年度	方向性
目標	健全な市民生活の基礎である、良質な水環境の保全を推進すること			

指標の内容	定義	「公共下水道への接続人口+農業集落排水への接続人口+合併処理浄化槽の推計使用人口」/「市の人口」により算出
	概要	<p>健全な水環境の確保と清らかな河川を保全するために、地域の実情に応じた効率的かつ適正な処理区域を設定し、汚水処理事業の整備を推進する。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道事業計画区域内の公共下水道の整備の推進</li> <li>・合併処理浄化槽の設置及び公共下水道への接続の促進</li> <li>・市広報媒体を活用した情報の提供</li> <li>・地元説明会の開催</li> <li>・合併処理浄化槽設置整備事業補助制度の活用</li> </ul>

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)	
			80.7%	84.8%	85.6%	86.2%	86.8%	87.4%	88.1%	89.1%	90.0%
実績	進捗	/	82.6%	83.3%	83.6%	83.7%					
			○	○	△	△					
参考	指標内訳										
			H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	下水道		71.59%	72.89%	74.45%	74.82%	75.00%				
	農業集落排水		0.52%	0.53%	0.49%	0.49%	0.49%				
合併処理浄化槽		8.59%	9.19%	8.38%	8.27%	8.21%					

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	自然環境	基本目標	豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
----	------	------	------------------------

項目 05

指標名	南アルプス主要地域(千枚小屋周辺)の高山植物種数の維持				
指標値	15種	時点	最終年度	方向性	維持
目標	南アルプスの自然環境・生態系の保全を推進し、地域資源や生態系サービスの基盤としての自然環境を、次世代へ受け継いでいくこと				

指標の内容	定義	南アルプス千枚小屋周辺に設置した防鹿柵内の3地点における、植生調査での高山植物の確認種数を集計 ※植生調査の手法：専門家によるブラウン・ブランケ法での調査
	概要	ニホンジカによる食害等の影響によって、以前(1970～90年代頃)に比べ多様性が減少していると考えられている。 南アルプス地域の高山植物を将来世代へ引継いでいくため、ニホンジカによる食害の影響を軽減する施策を実施し、高山植物の保護を図る。  【代表的な取組み】 ・防鹿柵の設置・維持管理による食害の軽減 千枚小屋周辺(オオサクラソウ生育地)に設置した防鹿柵の、継続的な維持管理を実施する。  ・「高山植物保護セミナー」による保護活動の担い手の育成 市内高校生を対象とした、高山植物の食害についての学習と、その対策としての防鹿柵の維持管理体験を通して、将来に渡り南アルプスの保全活動を担うための人材を育成する。

※(内)は、基準年度に確認された15種のうち、各年度でも発見された種数

計画	H25年度(基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度(目標年度)
	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種	15種
	実績	31種(14種)	35種(14種)	34種(13種)	31種(13種)				
進捗		○	○	○	○				

報告	植生調査の概要	
	調査地点図	<p>調査地点：3地点(左図A～C) 調査範囲：各地点5×5m 調査回数：年3回(6～8月) ※指標比較は8月下旬調査 確認種内訳：別紙のとおり</p> <p>千枚小屋周辺 ・植生保護柵(防鹿柵)(樹籬) (5カ所 総延長約750m) ① H25年度設置 延長約220m ② H25年度設置 延長約130m ③ H26年度設置 延長約200m ④ H26年度設置 延長約50m ⑤ H27年度設置 延長約150m</p> <p>C 千枚小屋東湿地地(③):24種 B 千枚小屋裏(②)(斜面上部):21種 A 千枚小屋裏(①)(斜面下部):20種</p> <p>ミヤマシシウド(柵内)      ミヤマシシウド(柵外) 食痕</p>
参考	<p>○ 防鹿柵内外の比較 柵外ではニホンジカの食痕がみられ、成長できずに矮性化している個体が目立ったが、柵内の植物については、生育、開花状況により正常に成長していると考えられる。</p> <p>○ 保全状況の考察 現在の防鹿柵内での確認種数は、ニホンジカの食圧を受ける以前(1970～90年代ごろ)の種数に近づきつつあるため、防鹿柵は一定の効果を発揮しているものと考えられる。 ※付近の調査で1979年は22種、1998年は29種を確認。 一方、限られた種の優占が著しく、その他の種の被度が低いため、かつての多様な植物が安定して混生する群落の成立には至っていないと考えられる。</p>	

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

確認された高山植物の内訳

別紙

・調査日 8月下旬

・調査場所 千枚小屋裏（斜面下部）、千枚小屋裏（斜面上部）、千枚小屋東湿性地

科名	種名	平成25年度 (基準年)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
タデ	イブキトラノオ	○	○	○	○	○
	タカネスイバ	○	○	○	○	○
キンポウゲ	ホソバトリカブト	○	○	○	○	○
	サンリンソウ	○	○	○	○	○
	サラシナショウマ	○	○	○	○	○
	ミヤマキンポウゲ	—	○	○	○	○
	カラマツソウ	○	○	○	○	○
	シナノキンバイ	—	○	○	○	○
	ミヤマオダマキ	—	—	—	—	○
メギ	サンカヨウ	—	○	—	○	—
オトギリソウ	シナノオトギリ	—	—	○	○	○
フウロソウ	タカネグンナイフウ	—	○	○	○	○
	ハクサンフウロ	○	○	○	○	○
スミレ	キバナノコマノツメ	—	○	○	○	○
アカバナ	イワアカバナ	—	○	○	○	○
セリ	ミヤマシシウド	○	○	○	○	○
	ミヤマセンキュウ	—	○	○	○	○
サクラソウ	オオサクラソウ	○	○	—	—	—
ゴマノハグサ	トモエシオガマ	—	○	○	○	○
	エゾシオガマ	○	○	○	○	○
キク	オオヨモギ	—	○	○	○	○
	コウモリソウ	—	—	○	○	○
	センジョウアザミ	○	○	○	○	○
	マルバダケブキ	○	○	○	○	○
	ミヤマコウゾリナ	—	—	○	—	—
	ミヤマヒゴタイ	—	○	○	○	○
	ミヤマアキノキリン	—	—	○	—	—
ヤマハハコ	—	—	○	○	○	
ユリ	マイヅルソウ	○	○	○	—	—
	オオバタケシマラン	—	○	—	—	—
	バイケイソウ	○	—	○	○	○
イネ	イワノガリヤス	—	○	—	—	—
	コメススキ	—	—	○	○	○
	タカネノガリヤス	—	○	○	○	○
	ミヤマドジョウツナ	—	○	—	—	—
	イブキヌカボ	—	○	○	○	—
	イブキソモソモ	—	○	○	○	○
	カラフトドジョウツ	—	—	—	○	○
イグサ	ミヤマヌカボシソウ	—	—	○	○	—
アブラナ	ヤマハタザオ	—	—	○	—	—
ナデシコ	タカネナデシコ	—	—	—	○	—
カヤツリグサ	スゲ属植物 ※	○	※	※	※	※
	ヒメスゲ ※	—	○	○	○	○
	キイトスゲ ※	—	○	○	○	○
発見種数		15種	31種	35種	34種	31種

※ 基準年度（平成25年度）に確認された「スゲ属植物」については、種名の特定ができていないため、同じスゲ属に属する種の確認状況により、保全状況を推計している。

※ 網掛け部分は、基準年度（平成25年度）に発見された種。



分野	自然環境	基本目標	豊かな自然環境を守り次の世代へ繋いでいきます
----	------	------	------------------------

項目 06

指標名	環境ボランティア数				
指標値	5,200人以上	時点	目標年度	方向性	向上
目標	持続可能な自然の利活用の推進により、自然環境の保全に主体的に取り組む人材を育むこと				

指標の内容	定義	市民等の参加を募る環境保全事業である、「清流クリーン作戦(玉川・藁科川・興津川)」、「河川環境アドプトプログラム」、「高山植物保護セミナー」での、年間延べ活動者数を集計
	概要	<p>市民ボランティアの参加による環境保全事業を実施するとともに、環境教育や普及啓発等の「伝える活動」により、こうした環境保全活動に主体的に参加する人や、将来の活動を担う人材の育成を図る。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境ボランティア事業の実施 興津川クリーン作戦、玉川クリーン作戦、藁科川クリーン作戦、河川環境アドプト事業、高山植物保護セミナーを継続して実施している。</li> <li>各事業実施にあたっては、広報誌やWEBサイト等を活用し広く周知するとともに、市内の事業者等に協力を呼びかけ、多様な主体から多くの参加者を募っている。</li> <li>環境保全に関わる人材育成 地域や学校等における環境教育や、環境保全活動を率先して行うリーダーの育成等を継続的に行い、主体的に環境ボランティアなどの活動に参加する「人づくり」を推進している。</li> </ul>

計画	H25年度(基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度(目標年度)			
		5,013人	-	-	-	5,100人(約2%増)	-	-	-	5,200人(約4%増)		
実績	/	2,508人	5,526人	4,903人	4,107人							
進捗		○ ※雨天により、対象事業中止	○	○	△							
報告	活動者数の内訳											
	参考	指標内訳		H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		クリーン作戦	玉川	342人	310人	310人	1,000人	中止				
			ごみの量	350kg	440kg	440kg	410kg	-				
			藁科川	2,000人	中止	2,800人	2,000人	2,000人				
			ごみの量	自己処理	-	2160kg	1,990kg	1,450kg				
			興津川	1,138人	1,000人	1,017人	923人	844人				
		ごみの量	960kg	960kg	620kg	530kg	570kg					
		河川環境アドプト	1,513人	1,175人	1,375人	951人	1,235人					
		河川環境アドプト登録団体数	106団体	106団体	106団体	110団体	116団体					
高山植物保護セミナー		20人	23人	24人	29人	28人						

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	地球環境	基本目標	総合的に地球温暖化対策に取り組みます
----	------	------	--------------------

項目 07

指標名	市民及び事業者の電気使用量の削減量				
指標値	8%以上(電灯・電力ともに)	時点	目標年度	方向性	削減
目標	省エネルギーの推進により、市域の温室効果ガス総排出量を削減すること				

指標の内容	定義	電力小売事業者へ照会し、「電灯・電力の販売量」/「契約口数」により算出
	概要	<p>民生部門、産業部門における温室効果ガス排出量を削減するため、市民及び事業者に対する、省エネルギーに関する普及啓発や省エネルギー設備等の導入促進等によって、電力使用量の削減を促す。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普及啓発 市民等の省エネルギーに関する理解や取組みの促進のため、様々な主体と連携し啓発活動を実施している。 ※平成30年度実施例 清水エスパルスと連携した「COOL CHOICE」の普及啓発 次世代エネルギーパークツアー クールビズ、ウォームビズ 等</li> <li>・事業者への支援 中小企業者向け省エネアドバイザー派遣事業 中小企業者に「省エネアドバイザー」を派遣し、省エネルギー対策に係る指導及び助言、二酸化炭素削減計画の策定支援等を実施</li> </ul> <p>中小企業者省エネルギー設備導入事業補助金 事業所に省エネルギー設備を導入する中小企業者に対し、導入に係る経費について補助金を交付</p> <p>エコアクション21取得事業者支援事業 事業者による自主的な廃棄物抑制や環境負荷低減のための取組みを促進するため、エコアクション21取得のためのセミナーの開催や取得事業者に対する補助金交付を実施</p>

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
		電灯: 3.72MWh 電力: 5.03MWh	-1%	-2%	-3%	-4%	-5%	-6%	-7%	-8%
実績	3.46MWh (-7.0%) 4.72MWh (-6.2%)	-	-	-	-	-	-	-		
進捗	○	-	-	-	-	-	-	-		

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	地球環境	基本目標	総合的に地球温暖化対策に取り組みます
----	------	------	--------------------

項目 08

指標名	市内の電気消費量に対する再生可能エネルギーの構成割合			
指標値	6%以上	時点	目標年度	方向性
目標	再生可能エネルギーの導入促進により、市域の温室効果ガス総排出量を削減すること			

指標の内容	定義	「市内の再生可能エネルギー発電施設の発電見込み量」／「平成25年度(基準年度)の電気消費量」により算出
	概要	<p>再生可能エネルギーの導入支援等によって、市内における再生可能エネルギー設備の普及を促進する。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーに関する環境教育の実施 市内の市有、民有の再生可能エネルギー設備を用いた見学会の開催や見学ルートの設定、周知等により、再生可能エネルギーに対する理解の促進を図る。</li> <li>家庭、事業所、公共施設等への普及 公共施設への優先した再生可能エネルギー設備の導入や、国や県の補助事業に関する情報発信等を通して、市域への再生可能エネルギーの導入を促進する。</li> <li>地域おこしを軸とした再生可能エネルギー導入の促進 市民や事業者との協働により、中山間地等における再生可能エネルギーを活用した地域活性化の取組みを支援する。</li> <li>卒FIT電源の活用方法の検討 2019年に発生する新たな地産電源(太陽光発電の余剰電力)を活用するためのスキームの検討 FIT後も安心して売却できるスキームを確立することで、導入意欲を向上させる。</li> </ul>

※( )内は、大規模水力発電を含む数字

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
	実績	4.00 % (21.5 %)	—	—	—	5.00 % (22.5 %)	—	—	—	6.00 % (23.6 %)
	進捗		5.17 % (22.7 %)	5.36 % (22.9 %)	5.62 % (23.2 %)	5.84 % (23.4 %)				

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 —:中止

分野	地球環境	基本目標	総合的に地球温暖化対策に取り組みます
----	------	------	--------------------

項目 09

指標名	防災スマート街区の形成				
指標値	4街区以上	時点	目標年度	方向性	向上
目標	エネルギーの分散化を推進することにより、環境負荷を低減するとともに防災力を強化すること				

指標の内容	定義	市内における「防災スマート街区」及び「防災スマート建築物」の認定件数を集計
	概要	<p>「防災スマート街区」認定制度の運用により、民間事業者によるエネルギー分散化の取組みを支援・促進する。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災スマート街区」認定制度について</li> <li>・エネルギーの効果的・効率的な活用機能(再生可能エネルギー設備や燃料電池、蓄電池、HEMS等によるエネルギーの需給調整等)を有する街区を「防災スマート街区・建築物」として認定する。</li> </ul> <p>平成27年度から事業の認定制度を開始しており、今後は、全庁的な連携により、規制緩和等も含めた民間事業者による事業促進の方策を検討していく。</p>

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
		0街区	-	-	-	2街区	-	-	-	4街区
	実績	/	0街区	0街区	0街区	0街区				
進捗	△		△	△	△					

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	地球環境	基本目標	総合的に地球温暖化対策に取り組みます
----	------	------	--------------------

項目 10

指標名	気候変動に対応するための体制整備				
指標値	整備	時点	目標年度	方向性	確保
目標	気候変動により既に起きつつある、又は避けられない影響に適応するための対策を推進すること				

指標の内容	定義	適応に関する施策を推進するための体制整備状況を確認
	概要	<p>市内での適応の取組みや普及啓発を推進するため、関係機関との協力体制を構築する。          ※適応策の推進については、国による取組みも始動段階であり、今後、国際的・全国的な動向が考えられるため、まずは体制整備を目標とし、目標年度内に整備が完了した場合には、その時点での情勢を踏まえた指標を再設定する予定。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適応策に関する学習会、情報共有の機会の創出</li> <li>・適応策として位置づけ可能な取組みの洗い出し</li> <li>・関係機関との協力体制構築</li> </ul> <p>【体制整備後の取組み(予定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候変動による静岡市への影響予測、調査</li> <li>・適応方針の策定</li> </ul>

計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
		未整備	-	普及啓発・情報共有			関係機関との調整		
報告	実績	-	庁内での連携体制構築	・庁内勉強会 ・施策整理	・庁内勉強会 ・施策整理				
	進捗	-	○	○	○				
参考	指標の変更について ※平成29年度に指標変更								
	前指標である「適応計画の策定」については、平成28年3月に策定した「第2次静岡市地球温暖化対策実行計画」内で「適応策編」として計画を策定し目標達成済みであるため、平成29年度に指標を変更し、外部機関も含めた適応策推進のための「体制整備」を目標とした。								

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	循環環境	基本目標	環境に配慮した廃棄物政策を推進します
----	------	------	--------------------

項目 11

指標名	一人1日当たりのごみ総排出量				
指標値	860g/人日以下	時点	目標年度	方向性	削減
目標	廃棄物のさらなる減量により、循環型社会の形成を図ること				

指標の内容	定義	「ごみ焼却施設への年間搬入量」／「(人口×365(うるう年は366))」により算出
	概要	<p>4R(①発生抑制(Refuse)②排出抑制(Reduce)③再使用(Reuse)④再生利用(Recycle)を一言で表す言葉「もったいない」をキーワードに掲げ、市民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任を認識し、協働して各種ごみ減量施策を推進する。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡版「もったいない運動」の推進</li> <li>・資源循環啓発施設を中心とした環境教育の推進</li> <li>・事業系ごみの減量化・資源化の推進</li> <li>・多量排出事業所への立入調査、減量化計画書の提出、管理責任者の選任を指導</li> </ul>

報告	計画	H25年度(基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度(目標年度)		
		1,008g/人日	975g/人日	959g/人日	942g/人日	926g/人日	908g/人日	892g/人日	876g/人日	860g/人日		
	実績	/	959g/人日	944g/人日	928g/人日	935g/人日						
			○	○	○	△						
	参考	総排出量の内訳										
		家庭ごみ(1人1日あたり)		H25	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
		目標		/	704g/人日	693g/人日	683g/人日	673g/人日	663g/人日	653g/人日	643g/人日	635g/人日
		実績		727g/人日	687g/人日	672g/人日	659g/人日	668g/人日				
		事業系ごみ(年総量)										
		目標		/	69,554kg	67,569kg	65,564kg	63,705kg	61,407kg	59,297kg	57,139kg	55,106kg
実績		73,717kg	70,749kg	70,373kg	69,382kg	68,543kg						

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止

分野	循環環境	基本目標	環境に配慮した廃棄物政策を推進します
----	------	------	--------------------

項目 12

指標名	最終処分場への埋め立て量				
指標値	11,731t以下	時点	目標年度	方向性	削減
目標	将来にわたって安定的な廃棄物処理体制を確保すること				

指標の内容	定義	最終処分場への年間埋立量を集計
	概要	<p>ごみ減量の取組みと併行して廃棄物の資源化を推進することで、最終処分場の延命化を図る。</p> <p>【代表的な取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団資源回収活動への支援</li> <li>・小型家電リサイクルの推進</li> <li>・「熔融スラグ」の有効利用</li> </ul> <p>本市公共工事での利用拡大          新たな利用方法についての研究推進(平成29年度に肥料として仮登録)          ※熔融スラグ:ごみやごみの焼却灰を1200℃以上の高温で溶かした後、冷却、固化させたもの</p>

報告	計画	H25年度 (基準年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (中間年度)	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 (目標年度)
			14,477t	14,174t	13,798t	13,437t	13,111t	12,778t	12,419t	12,062t
	実績	/	13,023t	12,836t	9,126t	9,381t				
	進捗		○	○	○	○				

【進捗状況凡例】◎:達成済み ○:達成見込み △:要調整 ×:達成困難 -:中止